



ノスタルジーな町並みと地場グルメに出会う

舞坂宿には、東海道で唯一の脇本陣があり、当時の風景がわずかに残っているのじゃ。江戸時代の喧騒を感じ取りながら、漁師町ならではのグルメも楽しむのじゃ。

Maisakashuku



【舞坂宿脇本陣】浜松市指定史跡
浜松市西区舞坂町舞坂2091 TEL.053-596-3715
入館料無料

身分の高い者しか入れなかつた「上段の間」。
※通常は座ることはできません。

海の幸三昧! 舞坂の絶品グルメ

舞坂が誇る「釜揚げしらす」

明治初期からしらす漁が行われていた舞坂は、しらす漁発祥の地といわれ、水揚げ量はトップクラス。遠州灘の波にもまれて身が縮まり、全国の中央卸売市場で高い評価を得ている。水揚げ後、すぐに釜ゆでされた「釜揚げしらす」は、みずみずしく、ふわりとした食感がたまらない。

歴史を物語る「浜名湖ぶち海苔」

江戸時代、東海道を旅した信州の海苔商人が舞坂宿に宿泊し、養殖を勧めて始まった浜名湖海苔生産。現在も続く日本最古の海苔養殖地として知られ、毎年2月6日・海苔の日には全国唯一の海苔供養祭が行われる。特産の青海苔と黒海苔を洗せて漬く「ぶち海苔」は、遠火で炙れば磯の香りが高まり、ご飯のお供として全国の指名買いファンを集めている。

新たな名物「あけあげコロン」

全国的に、有効活用への取り組みが行われている“未利用魚”を使った、あるいは揚げはんぺん。舞坂港のニギスやカマスなど値段がつきにくい栄養たっぷりな魚を使い、魚食離れと食育の両面で貢献したいと開発。すでに浜松市内の学校給食でも採用され、味と形で話題を集めている。姉妹商品の「あけあげあはん」は、生徒のネーミング。

■うな丼 2,500円 すっぽん料理 コース12,600円

【山本亭】浜松市西区舞坂町弁天島3221-10 TEL.053-592-2485 <http://www.yamamototei.com/>

【丸昌河合商店 弁天島直売店】
浜松市西区舞坂町弁天島2733-5 TEL.053-596-0241 <http://marumasakawai.jp/>

大迫力! 直径2.5mの大太鼓を打ち鳴らす奇祭

400年以上に渡る歴史を持つ「舞坂の大太鼓祭り」は、町内安全と豊漁を祈願するお祭り。遠州灘と浜名湖を舞台に、地元の男たちが繰り歩く奇祭だ。直径2.5mもある大太鼓を、長さ1mほどもある太鼓ぶちで打ち鳴らす勇壮な姿に、男たちの心意気を感じる。

■岐佐神社例祭 旧暦9月14・15日に開催



旅の目的は海の幸! 新鮮な浜松グルメを一举に楽しむ

遠州灘への玄関口「舞坂港」と、海水と淡水が混ざり合う汽水湖「浜名湖」を有するこの地は、海の幸の宝庫。鮮度抜群のあらゆる魚が楽しめる。観光客に人気の「山本亭」では、店内に大きないけすを設置し、注文が入ってから魚をさばく。さっきまで泳いでいた魚の新鮮さ、プリプリの食感が味わえるのは、漁港の町ならでは。その他、浜名湖うなぎやすっぽんなど、あらゆる浜松グルメが堪能できる。

■うな丼 2,500円 すっぽん料理 コース12,600円

【山本亭】浜松市西区舞坂町弁天島3221-10 TEL.053-592-2485 <http://www.yamamototei.com/>

遠州特産「ふわっと白い「蒸しはんぺん」

昔ながらの技法で作る「白はんぺん」は、もちろん伝統の一品。遠州の名産として、地元の人々に愛されている。焼いても煮ても、そのまま食べてもおいしい。浜名湖産の青のりが入った「のりはんぺん」、青しそ入の「しそはんぺん」など、季節に応じた豊かなバリエーションが魅力。蒸しはんぺん 50円(1枚)

夏の珍しい逸品「お魚そうめん」

夏季限定、魚のすりみのそうめんは喉越し抜群。すりみとは思えない程の細い麺は、老舗だからこそ作れる技。めんつゆをドレッシングで召し上げれ。お魚そうめん 300円

【魚秀】浜松市西区舞坂町舞坂59 TEL.053-592-0325 <http://www.uohide.jp/>



北雁木(今切渡し舞坂船場跡)

浜松市指定史跡
「今切の渡し」の渡船跡。渡船場は利用する階層によって分かれ、北雁木は大名や公家など地位の高い者が利用した。常夜燈と石畳が往時のたたずまいを偲ばせている。



見附石垣

江戸時代に見附番所があつたところ。諸侯の通行の際などには、石垣の横に番人が立ち、人馬の出入りを監視するとともに治安の維持にあつた。



磯の香りが漂う、風情ある漁師町

舞坂宿周辺

舞坂町(浜松市西区)は、浜名湖と遠州灘に面した「漁師の町」。古くから「浜松の台所」として、すっぽんの高い養殖技術でも注目されてきた。近年では、遠州灘産のハモやたらふくが有名だ。浜松の台所として機能し、漁獲のみならず、海苔・牡蠣・うなぎ・波風の心地良いリズムと磯の香りが充満するこの町もまた、かつての宿場町である。規模としては小さかったが、浜名湖のたもとに渡船場が備わっており、交通政策における重要な役割を担っていた。東海道を旅する人たちは、対岸の新居宿へと渡るこの渡船場を「今切の渡し」と呼んだという。明治7年(1874年)の大地震と津波によって、もともと陸続きだった浜名湖の湖岸が崩れ、遠州灘と繋がったという歴史があり、その湖岸一帯を「切れた所」今切(いまぎれ)と呼んでいたためである。

現在でも「今切」の地名は残つており、会が協力し、今切の渡しを再現した「浜名湖湖上遊覧船」の運行がスタート。江戸の旅人気分を味わえる新しいレジャーとして、観光客から人気を集めている。

どこまでもレトロな空気感、住人たちの世代を超えた人情味。舞坂町には、宿場町としての風情と、古き良き日本の風景が混在している。この町を訪ねると、数々の史跡巡り、海の幸グルメに事欠かないが、ぜひ体感してもらいたい街道がある。それは、JR舞坂駅南口から舞坂宿入口にかけての「これぞ、東海道!」と思える松並木である。この絶景を眺めていたら、やっぱり、東海道の旅人たちと同じ視点、時間と共に共有することができる。「東海道の松並木」とは、まさにこの情景のことなのだ。

この町を訪ねると、数々の史跡巡り、海の幸グルメに事欠かないが、ぜひ体感してもらいたい街道がある。それは、JR舞坂駅南口から舞坂宿入口にかけての「これぞ、東海道!」と思える松並木である。この絶景を眺めていたら、ただければ、東海道の旅人たちと同じ視点、時間と共に共有することができる。「東海道の松並木」とは、まさにこの情景のことなのだ。



舞坂の松並木 浜松市指定史跡

慶長9年(1604年)、江戸幕府の政策により、街道に松や杉を植えた歴史から、街道沿いには今でも多くの並木道がある。舞坂宿付近の旧東海道には、現在約390本、700mにわたり立派な松並木が残されている。東海道の面影を残す風景は、見とれてしまう美しさだ。

舞坂町観光協会 TEL.053-592-0757 <http://www.bentenjima.jp/>

舞坂宿周辺 Maisaka

日本橋から
三十番目の宿場
<舞坂宿>

